

神戸昇天教会月報

〒652-0015 神戸市兵庫区下祇園町39番7号 神戸昇天教会

牧師 小南 晃 電話 (078) 361-4490

FAX (078) 361-4539

http://nssk-kobeshoten.org/ 振替口座 01110-2-10517

今年の標語

「来てみませんか？」と誘える教会を目指そう。

努力目標

- ◎主日礼拝を大切に守ろう。
- ◎信徒一人ひとり教会活動に参画しよう。
- ◎地域との交流促進。

聖語 あなたは心を尽くし、魂を尽くし、力を
尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。

(申6:5)

祝 クリスマス

～私たちに寄り添ってくださる神～

「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」この名は、「神は我々と共におられる」という意味である。(マタイ1:23)

司祭 ミカエル 小南 晃

聖書全体を通して神が人間に語りかけておられるのは「私はあなたと共にいる」ではないでしょうか。

神の言葉に従って行先を知らぬまま約束の地に向かって旅に出た族長たち、またイスラエルの人々をエジプトから連れ出すために召し出されたモーセ、諸国民の預言者として立てられたエレミヤ、それぞれに神から「私はあなたと共にいる」という旨の言葉をかけられています。

試練の旅にあって、困難な使命を担うにあたり、この神の言葉は何にも増して励まし、慰めになり、生きる支えとなったことでしょう。

共にいてくださる神

旧約聖書の時代、「共にいてくださる神」については、見えない事実を信じるのが求められました。しかしご降誕の出来事は、その見えない神が人となり給いて御子として世に來られた出来事です。

冒頭の聖句はイザヤ書7章14節からの引用ですが、マタイ福音書は、御子イエスの御降誕においてまさに「インマヌエル」、即ち「神は我々と共におられる」ことが成

就したことを伝えるものです。

さらにこの福音書はその冒頭において、その成就を伝えると共に、その巻末において、復活の主イエス・キリストの言葉、「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。(マタイ28:20)」を伝えていきます。

主イエス・キリストの生涯と救いの業、またその存在そのものが「共にいてくださる神」であることを証ししていると言えます。

人と共に、時代と共に

『ユダヤ人の王としてお生まれになった方は、どこにおられますか。わたしたちは東方でその方の星を見たので、拝みに來たのです。』これを聞いて、ヘロデ王は不安を抱いた。エルサレムの人々も皆、同様であった。(マタイ2:2-3)。

星をしるべに御子を拝しに來た東方の占星術の学者たちの言葉に、ヘロデ王は自らの地位を脅かす存在の出現に不安を抱きました。そしてエルサレムの人々はこの先起こり得る権力闘争を恐れてでしょう、不安を抱いたのでした。主イエスはそうした不安と

恐れを抱く世界とその時代のただなかに來られたのでした。

今年は予想外のことが数多く起きた年でした。6月には英国のEU離脱、11月の米国大統領選挙では、事前予想とは異なり、過激な発言が批判されていた候補者が当選する結果となり、隣国の韓国では大統領の弾劾が要求されているなど、先行き不透明な不安が世界を覆っています。

そして主イエス・キリストは私たち一人ひとりと共に、現在のこの世界に対しても救いをもたらすために共に居てくださっているのです。

主と共に寄り添って行く

クリスマスの喜びとは、そうした世界の苦しみや恐れや不安に背を向けて現実逃避するためのものではありません。神がそれらすべてをご自分の身に負うことによって、私たちを救いへと導くために御子を送ってくださったことを信じて感謝し、喜び祝うのであります。

そして不安と恐れが覆っている世界にあっても、御降誕の出来事の内々に示された「恐れるな、わたしはあなたと共にいる」という主の言葉を確かに受けとめて、私たち自身がその希望と喜びのメッセージを、主と共に人々と世界に寄り添いながら示していく器とされていくということ、それがクリスマスの祝福であります。

共によりクリスマスを迎えましょう。

定例集会

日 午前7時 早朝聖餐式
" 9時15分 教会学校
" 10時30分 聖餐式・説教
午後6時 夕の礼拝

火 午前10時30分 聖書研究会
土 午前10時30分 教会掃除
(ご奉仕をお願いします)